

5-13 分子科学研究所所長招聘会議

分子科学研究所 所長招聘会議は、我が国の学術の姿、研究力強化、大学及び共同研究機関の変容と変革、大学院教育戦略・国際化、科学政策・評価などについて産官学の意見・考えを基に多角的統括的に討議することを目的に、2001年からはほぼ1年に1回の頻度で開催されている。日本学術会議 化学委員会、日本化学会 戦略企画委員会と分子科学研究所の共同主催として開催され、日本学術会議 化学委員会の主要活動の一つに位置づけられている。分子科学研究所は運営事務局として参画する。

ここ数年は初夏の頃に本会議を開催しており、2021年度は、「広がる化学系博士人材の未来」というタイトルで、2020年度に引き続きわが国の学術および産業界での研究力推進において博士課程修了者が果たす役割について議論を行った。日本学術会議 化学委員会でも世界におけるわが国の研究力低下の問題に対する解決策を検討される中、本会議では4名の講師を招き、企業で活躍する博士の存在意義を実績データ・事例の紹介を基に検討し、その重要性を再認識した。さらに、国際的観点から博士の重要性、国力・研究力の維持向上等、技術立国日本の近未来への指針について議論した。

なお、2021年度は2020年度に引き続き、COVID-19感染の深刻な状況に鑑み、WEBによる公開シンポジウムとして開催したところ、全国から約200名の参加者があった。

開催テーマ：「広がる化学系博士人材の未来」

開催日時：2021年6月8日 13:20～17:00

プログラム：

開会挨拶 川合真紀（分子科学研究所 所長）

報告、趣旨説明 茶谷直人（大阪大学 教授）

講演

「博士課程学生への支援の充実について」

奥野 真（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）

「化学分野における博士課程修了者の就職実績の内実」

西村君平（東北大学 特任講師）

「私の見た博士人材」

辻村達哉（共同通信社）

「博士が起業するという事——複合的な研究への取り組みを経て」

大田一男（コンフレックス（株））

総合討論 司会：北川尚美（東北大学 教授）

主催：日本学術会議化学委員会、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人 日本化学会戦略企画委員会

運営事務局：分子科学研究所（岡本裕巳 教授）